

## 田中畜産さん

今回のユーザー紹介は、兵庫県但馬地域で肉牛牧場を経営されている田中畜産さんです。

代表の田中一馬さんは2001年に新規就農。現在は、但馬牛（黒毛和種）の素牛生産（繁殖牛 60 頭）をメインとしながら、肥育（10 頭）や精肉加工販売も手掛けておられます。

また、その取り組みを YouTube など SNS で小まめに発信し続け、多方面で大きな反響を呼んでいます。



田中畜産さんの経営理念は、

『とにかく牛を健康に育てる（事故が無いように飼う）こと』です。

前述しましたように事業は多岐に亘りますが、経営の土台は素牛生産（繁殖農家さん）であるということを肝に銘じておられます。

その土台がしっかりできているからこそ、肥育や精肉加工販売、SNS による情報発信が生きてくると考えています。

では、牛を健康に育てるために特に意識していることは何か、それは『繁殖牛からの管理を充実させる』ことです。

理由は、繁殖牛の健康のみならず、胎児（子牛）の発育にも強く影響を与えていると考えているからです。粗飼料は全量購入していますが、繁殖牛（全ての期間）に対しても常時余るくらい与えていて、良好な健康状態とボディコンディションを維持しています。（もちろん、それ以外の様々な取り組みも実施されています）

また、以前は分娩前後の時期だけを意識し管理を充実させていましたが、その時と比べ、今は**出生時の（子牛の）活力が良くなり、初期発育は格段と良くなった**とのことでした。

もちろん生まれてからの管理も充実していることは言うまでもありません。

哺育は、母乳による自然哺育に加え、人工哺育も併用しています。そのことにより、哺育期の疾病が減少したとのことでした。





離乳は5か月齢前後で実施。やや遅い印象ですが、理由はその頃にはエサだけでなく、草もしっかり食べることができていて、離乳がスムーズにできるからとのことでした。

子牛セリには8～9か月齢頃の牛を出荷。以前は8か月齢頃でしたが、近年は9か月齢頃に延びてきているようです。去勢は主に県内の肥育農場さんへ、メスは県内外の肥育農場さん（又は繁殖農場さん）のもとへ旅立つ

そうです。田中畜産さんの素牛は肋張りがしっかりして発育が良く、セリでの評価も高いようですよ！

さて、そんな田中畜産さんがアースジェネターを給与し始めたのは、新規就農した頃の20数年前とのことでした。

(有)シェパードさんのHPでアースジェネターを知り、弊社営業担当（当時）の佐藤隆司氏（現弊社顧問）に出会い、信頼できそうな人（商品）との理由から給与開始。

現在は、哺育～素牛出荷まで給与しています。

下痢（クリプト、クロスト等）や軟便で困ることが殆どないとのことですが、アースジェネターもその一助として貢献しているのではないかと考えておられます。

また、ふん便の状態の良さが、床の長持ちや臭気の減少に繋がるだけでなく、牛舎内の微生物叢（バランス）の安定にも繋がっていると感じています。

最後に今後の展望についてお伺いしました。

それは、経営理念である『牛を健康に育てる』ことを継続した上で、『**食べて美味しい牛をつくりたい**』とのことでした。

田中畜産さんが飼養している但馬牛は、遺伝的にも日本で最も美味しいと評価を得ているブランド牛の一つです。素牛生産がメインでありながらも、但馬牛を飼養している田中畜産さんは、その美味しさを追求する使命感を持たれているのです。

そして、**食べて美味しい牛をつくるためには、やはり牛を健康に育てることが土台**と考えています。

前述しましたように、それは繁殖牛のお腹にいる胎児の時から始まっています。生まれた時点で活力があり、哺育期から離乳までの良好な発育、育成期から肥育前期でしっかりと腹をつくり、肥育出荷まで元気よくエサをモリモリ食べ続ける……

その結果、牛が持つ能力を最大限に引き出されて、ようやく美味しい牛（お肉）にたどり着くと考えておられます。

しっかりとした土台を作り上げ、壮大な構想を持つ田中畜産さん。

今後益々のご活躍を強く祈っています！！

（植田 秋良）

